

## 県内の患者数

矢印は、前週の数に対して ↑増加 ↓減少 →横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 576	767	百日咳	↑ 1	0
RSウイルス感染症	↓ 6	10	ヘルパンギーナ	↓ 7	10
咽頭結膜熱	↑ 20	9	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↓ 44	61
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	↑ 63	57	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↓ 404	442	流行性角結膜炎(はやり目)	→ 10	10
水痘	↑ 86	74	細菌性髄膜炎	↓ 0	1
手足口病	↓ 0	1	無菌性髄膜炎	↑ 1	0
伝染性紅斑(りんご病)	→ 7	8	マイコプラズマ肺炎	↓ 1	3
突発性発しん	↓ 34	49	クラミジア肺炎	↓ 0	1

報告が多い感染症

- ☀ インフルエンザ
- ☀ 感染性胃腸炎
- ☀ 水痘

- インフルエンザは、報告数 576件(前週報告数 767件)と減少した。地区別では、人吉、菊池、有明に多く報告がみられる。年齢別では、10～14歳の 86件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- 感染性胃腸炎は、報告数 404件(前週報告数 442件)と減少した。地区別では、山鹿、有明、菊池に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の 75件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- 水痘は、報告数 86件(前週報告数 74件)と増加した。地区別では、水俣、菊池、天草に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の 20件を最多に、9歳以下からの報告である。

## ◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	133	2	3	23	98	31	0	1	14	1	1	10		7		1	1	
山鹿保健所	24	0	0	0	35	0	0	0	2	0	1	0	*	*				
菊池保健所	81	0	10	3	48	10	0	4	3	0	0	3						
阿蘇保健所	19	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	*	*				
御船保健所	3	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	*	*				
八代保健所	43	0	0	5	40	2	0	2	2	0	2	8						
水俣保健所	7	1	2	1	4	16	0	0	2	0	0	8	*	*				
人吉保健所	71	2	0	20	23	3	0	0	1	0	0	0	*	*				
有明保健所	90	0	5	2	79	9	0	0	6	0	0	2		2				
宇城保健所	65	1	0	1	25	6	0	0	4	0	2	4		1				
天草保健所	40	0	0	7	47	9	0	0	0	0	1	9						
計	576	6	20	63	404	86	0	7	34	1	7	44	0	10	0	1	1	0

## ◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上
インフルエンザ	576	3	6	25	24	29	58	55	53	42	31	24	86	11	41	31	20	14	9	8	6
小児科定点年齢	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上						
RSウイルス感染症	6		2	4	1	2	4	1	2			1	2								
咽頭結膜熱	20		3	4	1	2	4	1	2			1	2								
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	63		1	1	3	8	11	9	6	8	4	2	8		2						
感染性胃腸炎	404	8	40	75	59	31	45	35	25	17	14	9	17	2	27						
水痘	86	3	6	20	17	15	7	7	8			3									
手足口病	0																				
伝染性紅斑	7			3			2		1	1											
突発性発しん	34	1	12	19	2																
百日咳	1					1															
ヘルパンギーナ	7			4	1	1		1													
流行性耳下腺炎	44			2	1	6	11	5	9	3	1	4	1		1						
眼科定点年齢区分	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	10													1	1	3	3			2	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0																				
無菌性髄膜炎	1			1																	
マイコプラズマ肺炎	1				1																
クラミジア肺炎	0																				

大きな流行が発生  
又は継続しつつある地域

インフルエンザ : 菊池・人吉・有明

感染性胃腸炎 : 山鹿

水痘 : 水俣

流行性耳下腺炎 : 水俣

麻しん(はしか)



平成19年に10代及び20代を中心とした年齢層で麻しん(はしか)が大流行し、高等学校や大学において休業等の措置がとられるなどの大きな混乱が生じました。その流行を受け、現在、平成24年度までに日本から麻しんを排除するために全国で様々な対策を実施しています。県内では、平成22年5月以来発生はありませんが、全国では年間400件以上報告されており、引き続き流行を予防するための対策が必要です。自分が感染しないためだけでなく、周りの人に感染を広げないためにも**予防接種は有効**です。麻しんの発症を確実に防ぐためには、2回の予防接種を受けることが必要です。麻しんと風しんの定期予防接種対象が、第1期(1歳児)、第2期(小学校入学前年度の1年間にあたる児)に加え、平成20年4月1日から、5年間の期限付き(今年度で終了します)で、第3期(中学1年生相当年齢)、第4期(高校3年生相当年齢)に拡大されています。対象にあたる方々は、早めに予防接種を受けましょう。時期を逃すと接種費用がかかります。接種の詳細については、お住まいの市町村にお問い合わせください。